

長期ビジョンの実現に重要なマテリアリティ

ミウラグループでは、価値創造プロセスとその持続性に重要な影響を及ぼす課題を株主・投資家などの主要ステークホルダーの視点で抽出しています。マテリアリティ項目の取り組み強化により、社会的価値創出と経済的価値創出の両立をめざします。

ミウラグループのマテリアリティ(事業課題)

E/S/G	項目	選定理由	具体的な取り組み	関連するSDGs
E	環境負荷の低減 ▶P.43 気候変動への取り組み ▶P.47	気候変動問題など自然資本への配慮および貢献は、当社およびステークホルダーの持続性への影響度が高い。	● 環境に配慮した製品開発 ● 自社操業におけるエネルギーの有効利用 ● 廃棄物量の削減と資源有効利用 ● 化学物質管理	
	人財戦略・マネジメント ▶P.49	メンテナンスを核とする当社ビジネスモデルおよびグローバルな拡大の戦略から、国内外において専門性・多様性のある人的資本の拡充が長期的な成長において重要である。	● 人財育成 ● 多様な人財の活用 ● 職場環境の整備 ● 人権尊重	
	労働安全衛生 ▶P.52	製造会社として従業員の安全と健康の確保、取引業者の安全教育が、人的資本、社会・関係資本の拡充のうえで重要である。	● 労働災害防止 ● 安全衛生教育の実施 ● 健康経営の推進	
	製品・サービスの品質管理 ▶P.53	顧客やビジネスパートナーの信頼に応える当社事業の強みを発揮するため、知的資本、社会・関係資本の維持・拡充の観点から、不断の品質管理が重要である。	● 品質向上会議、製品開発におけるリスクアセスメント ● 製品不適合への迅速・適切な対応	
S	サプライチェーンマネジメント ▶P.55	サプライチェーンでの社会的課題への協働取り組みの体制構築が、社会・関係資本、自然資本に良い影響を与える。	● 調達におけるBCP推進 ● 主要サプライヤーとの四位一体改革の推進 ● グリーン調達(化学物質管理)の推進	
	コーポレート・ガバナンス ▶P.65	経営の基盤として、長期的な経済的価値創出と社会的価値創出の両立をめざすうえで、ガバナンスの高度化の継続は重要である。	● 取締役会の実効性評価を活用したガバナンス体制の強化 ● 取締役会の実効性向上への取り組み	
G	コンプライアンス ▶P.72	関係法令などの法令遵守やリスク軽減の仕組み構築は、社会・関係資本の毀損を防止し、当社の持続性に直接的に影響を与える重要項目である。	● 贈収賄防止 ● 安全保障輸出管理 ● 知的財産の保護	

マテリアリティ特定プロセス

Step 01	課題の抽出 株主・投資家などの主要なステークホルダーとの対話を通じて認識した期待・要請項目を、主要なESG評価機関の評価項目、米国サステナビリティ会計基準審議会(SASB)の産業別マテリアリティを参考に、幅広く課題を抽出。
Step 02	事業部門での落とし込み ミウラグループの企業理念を踏まえ、中長期的な価値創造における重要度の高いテーマを社外の有識者の意見を参考に選別。
Step 03	取締役会で決定 サステナビリティ推進会議で検討し合意したKPIを経営会議、取締役会で決定。
Step 04	サステナビリティ推進会議で進捗チェック 3ヵ月ごとにサステナビリティ推進会議で進捗報告し、PDCAを回す。

サステナビリティマネジメント

企業理念
熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します

モットー
我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう

サステナビリティ基本方針
ミウラグループは、熱・水・環境のベストパートナーとして、企業活動を通じ、サステナブルな社会の実現に貢献します

代表取締役 専務執行役員
サステナビリティ推進担当役員
廣井 政幸

ミウラグループが考えるサステナビリティは、グループすべての従業員が企業理念とモットーを共有し、一人ひとりが活きいきと働き、お客様のお役に立ち、それが地球環境保全や社会貢献に繋がり、企業としても成長していくことです。

サステナビリティの重要課題(マテリアリティ)への対応は、企業にとってリスクの減少のみならず、収益機会にも繋がる重要な経営課題であると認識しています。特にミウラグループは、省エネ等で気候変動問題に寄与する商品も多く手がけており、今後大きな変容が予想されるエネルギー事情を見据えて経営資源を配分し、積極的かつ能動的に取り組んでいくことは、中長期的な企業価値の向上の観点からも非常に重要であると考えています。

サステナビリティ推進体制

サステナブルな経営を推進する仕組みとして「サステナビリティ推進会議」を年4回開催し、サステナビリティの重要課題(マテリアリティ)の推進に取り組んでいます。推進会議は、社長執行役員 CEOが指名するサステナビリティ推進担当役員を議長とし、関連部門の執行役員などで構成しています。

推進会議では、価値創造プロセスとその持続性に重要な影響を及ぼす課題として2020年3月期にミウラグループマテリアリティを特定しました。その解決に向け、具体的な取り組みを整理し、各部門が長期的にめざす姿としてKPIを設定し、関連性の高いSDGsとの関係を整理し、方針・計画・施策の審議決定(Plan)、各部門での遂行(Do)、進捗管理＝推進会議での進捗報告(Check)、各部門の取り組みの促進(Action)を行っています。

サステナビリティ推進活動

2023年3月期のサステナビリティ推進会議では、経済産業省「GXリーグ基本構想」への賛同・参画表明、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)提言に基づく情報開示、温室効果ガス削減活動の報告、インターナルカーボンプライシングの設定(2023年5月)、サステナブル調達に向けた活動などを協議し、各部門での活動へと展開しました。

サステナビリティマネジメント体制図

